

インタビュー

Interview
飯島克子Tezukayama
Gakuin
Izumigaoka
Dousoukai

● 青雲

Seiun

輝く人 4人からのメッセージ

恩師から 澤田先生・小西先生

新幹事キャンパスライフ

同窓会報告

幹事's 同窓生探訪

同窓会室より

泉ヶ丘総会 in 東京2013

第4回「青雲会」ゴルフコンペ

幹事総会2014

泉ヶ丘通信

club activity

卒業生母校へ帰る

泉ヶ丘祭インフォメーション

記念事業の報告

アドミッションセンターより

第8回泉ヶ丘同窓会

総会・懇親会のご案内





インタビュー 飯島克子 (旧姓 八木) [国際科2期生]

—— 本日は大会前のお忙しいところ、お時間割いていただきありがとうございます。

飯島 いえいえ、わざわざ遠い所までありがとうございます。
—— はじめに、飯島さんが出場されているジムカーナとはどんな競技か、教えていただけますか？

飯島 舗装された路面で行われる、自動車のタイムトライアル競技です。一台ずつ走って、スタートからゴールまでのタイムを競うところが、一斉にスタートして順位を争うレースとは違うところ。一日二本走って、ベストタイムで順位がつきます。よく説明する時に例えるのは、スキーマンツの回転競技ですね。

—— ジムカーナを始めたきっかけは？

飯島 大学の時に参加していたサークルに、車好きの男の子がいたんですが、その男の子が入り出していたカーショップに行った時に、ショップの人から、「今度ジムカーナに出るんやけど、見に来ないか？」と誘われて観戦に行ったんです。するとそこに女性の選手がいて、目の前でタイヤ交換を始めたんです。それを見て、「うわ、この人めっちゃカッコいい！」と思って。それがきっかけですね。
—— なるほど。偶然、同性の選手を見かけたというのが大きかったんですね。

飯島 ええ。それと同時に「私にもできそう」と思ったんです(笑)。
—— そこから行動に移すのは早かった？

飯島 すぐでしたね。たまたまその時にマニュアル車に乗っていたので、その車で出場しました。初心者向けの大会だったんですが、レディースクラスでいきなり2位か3位か、とにかく表彰台に登るような結果だったので、これは楽しいと思いましたね。

—— 幸先のいいスタートだったんですね。

飯島 はい。それに加えて、やはりこの世界は女性が少ないものですから、いろんな方が教えてくれたり、アドバイスをくれたりしました。それをもとに車も乗り換えたんです。

—— 本格的に取り組もうと思ったんですか？

飯島 いえ。まだどっぷり浸かる気はなかったんです。ただ、

「これに乗ったら勝てるよ」と言われたので、「じゃあ買おう」といったノリでした(笑)。

—— そこからどのようにキャリアを積まれてきたんですか？

飯島 大学卒業後、歯科衛生士の専門学校にも通ったので、学生時代はお遊び程度でした。社会人になってから、年間通して戦って、合計のポイントで順位が決まるシリーズ戦というものに出場することにしました。それが1995年、26歳の時です。

これも最初は初心者レディースクラスからスタートし、1年目にそこそこの成績を残せたので、次の年はひとつクラスを上げて出場しました。そして1997年に近畿地区のレディースチャンピオンを獲得しました。同時にレディースクラスとは別にチャンピオン戦、ジュニア戦、フレッシュマン戦と3クラスある中のジュニアチャンピオンになり、この年はダブルタイトルを獲得することができました。ジュニア戦は男性の選手もいる中でタイトルだったので特にうれしかったですね。

1998年からはチャンピオン戦に昇格、1999年にインテグラという車のクラスでシリーズ6位の成績を残したことに気を良くして、2000年から全日本選手権に挑戦することになりました。この時に車をホンダのシティに乗り換えて、排気量がひとつ下のクラスでチャレンジしました。

—— それにはなにが理由があったんですか？

飯島 インテグラという車は大きくパワーもあるので、全日本レベルになると私には扱いきれなかった、というのがひとつ、あとはタイヤなどのランニングコストを安く抑えられるから、というのもありました。

—— 車を換えていよいよ全日本でチャレンジしてみ、いかがでしたか？

飯島 けっこうボロボロにやられました。2002年まで挑戦したんですが、シリーズ10位が最高でした。そこで一度力尽きて、全日本への挑戦は一旦休止することにしました。金銭的にも限界だったので……。

それでも近畿地区の大会などには出場しながら活動を続けていました。その後、クラス編成が変わり、再び出場するチャンスがあったので、2005年、2006年の2年間で決めて全日本に挑戦しました。この時はシリーズ8位が最高でした。そして引退しました。
—— えへ、引退されたんですか？

飯島 はい。実は2007年に結婚し、一度は引退したんです。主人(注・飯島賢治選手・2007年～2011年の全日本チャンピオン)もジムカーナの選手だったので、結婚後しばらくは主人の競技のサポートをしながら、時々感覚を忘れないように走ったりしていました。

2012年に主人がマシンを乗換えるのを機にクルマを譲ってもらうことになり、もう一度走ることにしました。その時は千葉戦(注・関東地区大会にするとエントリーが多すぎるので各都道府県ごとの大会がある)に出場し、再びチャンピオンを獲得しました。そして去年、関東地区シリーズ戦にステップアップしシリーズ6位の成績を残し、今に至ります。
—— すごく戦績を重ねてきたんですね！

ところで先ほどモータースポーツの世界では、女性の選手が少ないとお話されましたが、そんな環境の中で競技を続けられて、女性として気付くことや感じたことなどはありましたか？

飯島 女性だということをマイナスに感じたことはないですね。勝てばすごいと言ってもらえますし。私も必死でやっていますが、周りも必死だと思っています。男性ならやはり女性に負けたくないというプライドもあるでしょうから。

あとはやはり、長くやりますので友人も増えましたし、楽しいです。同じ趣味の仲間がいるから、ここまでやってこれたと思います。それから、レースと違って長く走り続けられない、1分から1分30秒で勝負が決まるので、それも長く続けてこれた理由かなと思います。

—— 普段から体力づくりは行っているんですか？

飯島 ジョギングしたり、腹筋・背筋・ダンベルは日課になっていますね。最近はストレッチに重点を置いて、疲れを残さないようにしています。シリーズ中は500km～600kmの距離を移動して試合をする生活を2週間1回とかのペースで続けていますから。

—— 競技の時間は短くても、やはり相当ハードなんですね。とこ

Profile

飯島克子 (旧姓 八木)

大学時代にジムカーナに出会い、その魅力に引き込まれる。社会人になってから本格的に始め、1997年に近畿地区レディースチャンピオンとジュニアチャンピオンのダブルタイトルを獲得。2000～2002年、2005～2006年と全日本選手権に挑戦。シリーズ8位の成績を残す。2007年に結婚を機に一度引退するが2012年にカムバック、千葉戦チャンピオン獲得。2013年関東地区シリーズ6位。現在も歯科衛生士の仕事と競技を両立しながら活動中。

チャンピオンをめざしてがんばっています！

ろで、モータースポーツってお金かきそうないイメージがあるんですが、飯島さんぐらいの成績を残していると、ある程度スポンサーからの援助はあるんですか？

飯島 いえ。私の場合は9割が自腹です。サポートしてもらえるのは1割ぐらいです。

—— そうなんですか！思っている以上に厳しいんですね……。
趣味とはいえ、そこまで真剣に取り組むために気力を保つのは大変ではないですか？

飯島 ずっと自分で思っているのは、負けて悔しい間は続けられるかな、と。負けて「まあいいや」と思うようになったらやめ時かなと考えています。闘争心、向上心がある間は続けたいですね。

—— さてこの辺りで泉ヶ丘校時代の思い出をお聞かせしたいのですが。

飯島 うーん。バレーボール部でがんばったかな？というぐらいで、ありません(笑)。実は私、通学に2時間かかっていたんですが、今から考えるともっとその時間を有効に使っておけばよかったなと思います。

その時は特に目標もなく過ごしていたんですが、今、こうやって20年以上続けてこれた好きなことに出会えているので、そういう意味ではラッキーだったんでしょね。

ジムカーナを始めたのも、帝塚山学院大学のサークルがきっかけだったので、なにか縁は感じますね。

—— 今、会ってみたい先生はいますか？

飯島 岩崎弘美先生ですね。1年生の時に担任だったのですが、今はどうされているのかな？

—— それでは、同窓生に向けてメッセージをお願いできますか？

飯島 仕事で悩んだり、家庭のことで悩んだりすることもあると思うけど、それはきっと幸せなことなんだと思います。その時はつらいけど、後で振り返った時に、「あの時もよかったな」ってきっと思えるはずです。私自身も、競技や生活で大変なことはたくさんありましたが、それも楽しかったと思えます。

—— 今の生活を一生懸命楽しんでください！今日はどうもありがとうございます！



輝く人

重要なのは相手の考えを理解すること



星野 快

(普通科 7期生)
長島・大野・常松法律事務所

普通科 7 期生で現在米国ヴァージニア大学のロースクールに留学中の星野快と申します。何故40歳にもなつて今更留学してるのか不思議に思われる方もいらっしゃると思いますので、最初に事情をご説明します。私は損害保険会社で8年間勤務後、会社を辞めて弁護士になるため日本の法科大学院に入学し、その後2008年に現在の所属先である長島・大野・常松法律事務所に入所しました。私のいる事務所では国際的な案件を扱う機会が多いこともあり、数年勤務した弁護士に一旦休職して海外留学をする機会を与えています。私の場合、主な取扱分野はキャピタルマーケットといふ企業が株式や社債を発行して資金を調達するお手伝いをしていますが、案件の7、8割方は国境をまたぐ取引です。

留学してみて分かったことは、そもそも法に対する考え方が根本的に異なるということでした。誤解を恐れずにいうと、日本では法は国が明文化して制定するものですが、米国では法は必ずしも明文化されておらず、当事者が具体的な状況に応じて導き出す原理原則のようなものと考えられているようです。このような考え方の違いは例えば米国の弁護士と契約交渉をする際にも時として重要な影響を及ぼすように思います。彼らのバックボーンとなっている思考法を授業を通じて肌身で感じることは貴重な経験となりました。

これからはますます国際化が進み多くの業種で国内だけを相手にしていられなくなるのではないかと思います。その際に重要なのは言葉だけではなく相手の考え方を理解することも必要ではないでしょうか。留学はそのための一つの有力な選択肢です。ただし留学費用はばかになりません。主要ロースクールの場合学費は500万円ほどですし、例えばニューヨークでは家賃も月30万円位はかかるそうです。その点ヴァージニア大学の場合、少なくとも家賃はニューヨークの3分の1位の水準で快適な環境で過ごすことができます。もし米国の大学への留学をご検討中の方がいらっしゃいましたら、地方にも評判の良い大学は多数ありますので、是非大都市以外にも目を向けてみてください。



ずっと自然に導かれた、そんな感じでした



滝澤 志野

(国際科 9期生)
ウィーン国立歌劇場専属ピアニスト

私がウィーンに来て、3年が経とうとしています。渡欧前は新国立劇場等のピアニストとして東京で働いていました。充実した日々ではありましたが、芸術の本場で経験を積みたい気持ち、また、東京で生きている不安や閉塞感も大きくなってきて、道を模索していました。そして2011年冬、欧州各劇場の門戸を叩く旅に出かけました。事前にいくつかの劇場を紹介して頂きましたが、私はウィーン国立歌劇場に特別な思い入れがありました。その前の年に旅行で訪れ、歌劇場に入って心奪われ、「絶対ここ!」と思っていたのです。ここでピアノが弾きたい。そんな想いを持って再訪したのですが、そこで偶然、次シーズンからピアニストに欠員が出ることを聞かされ、急遽オーディションをして頂きました。ミラクル、だけど、ずっと自然に導かれた、そんな感じでした。

専属ピアニストとして契約できたのは幸いでしたが、留学経験もなく飛び込んだ私にとって、壁も多々ありました。英語もドイツ語もロクに話せません。スランブに陥りピアノが弾けなくなり、休日も劇場に通い詰めて練習する日々が続きました。

ようやく余裕がでて友人と呼べる人もできてきたのは、ウィーンに来て一年もたった頃でした。そして3年、クリスマスもお正月もなくオーケストラピットで弾き、ウィーンフィルの楽団員と共にピアノ協奏曲を弾き、度々海外公演にも出かけ、何かをクリアしたと思うと、また想像を越える難関が降ってくる、限界への挑戦の日々。心から安住することなんてないでしょう。だけど、仲間恵まれ、素晴らしいアーティストと出逢い、共に芸術を作りあげていけること、芸術を愛し守ってくれる社会があり、芸術のことだけを考えて生きていけること、とても幸せに感じています。

高3の夏、音大に進学したいと急に言い出した私ととことん話した上、最終的に応援してくれた、担任の故・和田先生も天国で見守ってくれているでしょうか。

「英語ドイツ語もっと頑張れよ」と言われている気もします(笑)道は続いていきます。一瞬一瞬を大切に、真摯に生きようと思うのです。



公認会計士としての10年、そして今後の人生



高橋 正哉

(普通科 11期生)
公認会計士・税理士

1997年に泉ヶ丘校を卒業してから早いもので17年が経ちました。卒業後は大阪府立大学(経営学専攻)に進学し、その後資格浪人期間(2年半程度)を経て2003年に公認会計士試験に合格。試験合格後は新日本監査法人という会計事務所で7年程度、会計系のコンサルティング会社に2年程度勤務し、2012年暮れに故郷の大阪で独立開業しております。勤務時代は上場会社の会計監査や企業買収時の財務調査・企業価値評価・内部統制(社内チェック体制の仕組み)構築などの主に大企業を対象とした業務に従事してきました。国内で6千人超、世界で17万人超の会計事務所に所属していたこともあり、20代から大企業の役員の方々と多く接することができ、若くから通常のビジネスパーソンができないような経験を色々と積ませて頂きました。これが公認会計士という職に就くことで得られる最大のメリットですが、ある時から「このままで良いのだろうか?」「もっと自分の力を試してみたい」という気持ちが次第に強くなってきたこと、また、クライアント経営者から「もっと企業内の実務を知らなければ本物の会計士にはなれないよ」と言われたことがきっかけで独立を決意しました。

しかし、独立後は一転、今までの(それなりにあった)自信は大きく崩れ去りました。勤務時代は待っていても仕事は山のように降ってきましたが、独立後はそのような事は一切ありません。自分の今までの経験・ノウハウを生かそうにもそのチャンスがなかったのです。この1年半ほど専門分野以外のことでもたくさん勉強し、積極的に行動して失敗し、自問自答を繰り返しながら前に進んできました。勤務時代の3~5倍くらいのスピードで時間が過ぎているような感覚があり、1年前のことが遠い昔のように感じます。現在も順風満帆とは言えないものの、少しずつ形にはなりつつあります。独立して勤務時代とは随分と異なる景色が見えてきました。付き合う方々の幅も広がり、今後の展開が楽しみです。

[編集後記]

泉ヶ丘校の同級生4人で高校卒業後も2年程度バンド活動を続けていました。互いの家に寝泊りするほど没頭し、四六時中趣味に時間を割いたのは後にも先にもこの時だけで、一生の大切な思い出になっています。ちなみに今はただの小太りな育メン(!?)です。



故郷を飛び出させた理由なき「衝動」と「情熱」 今も自分の生業の根幹



あつんど
丸山 厚人

(普通科 13期生)
俳優

まず始めに…、この度の寄稿のお話、誠に光栄な事でありますが、同時に大変恐縮でもありまして(笑)。

おそらくこのコーナーにご登場される他のOB、OGの皆様は、日本国内に留まらず世界各地でご活躍されていらっしゃるでしょうし、それに比べて私のような者が何を書かせていただければ良いのやら悩みますが、せっかくだいたい話、誠に拙い文章ではありますが、しばしお付き合い願えば幸いです。

東京に出て早や14年程経ちますが、相も変わらず俳優業に進出しつつも、理想と現実、日常と非日常の間を行ったり来たり、一進一退の毎日を過ごしています。「泉ヶ丘」の駅で涙にむせぶ母と別れたあの一日は、今も私の原風景(と言っては少々大げさですが)の一つとして心に残っていますが、今にして思うと緑豊かな泉北の地でのほほんと育ってきた自分が、裸一貫で故郷を飛び出すという決断を良くあのハタチこそこでくださったなあと感じます。

とはいえ、半ば強引に上京してから今日まで、一応俳優業界の片隅でなんとか役者稼業を続けさせてもらっているのは、あの時、理由は分からないけれども何かに突き動かされるように故郷を飛び出したからなのだと思います。結局、現在に至るまで、そういう青春の「衝動」や「情熱」と表現される物が、今も自分の生業の根幹を成しているのだなと。

まだまだ諸先輩方からは、「若い!」と言われてしまう若輩の未熟者ではありますが、今回のこの寄稿のお話をいただいて、改めてそんな事を考えさせられました。

今年の夏は、久々に実家の親父やお袋の顔でも見に行こうかな(笑)。その時には、是非、泉ヶ丘校の綺麗な校舎も見たいですね!

最後になりますが、今回私を推薦してくださった栗原先生に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

恩師から

message

01



Daisuke Konishi

小西 代祐 先生(社会)

私が泉ヶ丘校に着任した1980年代後半は、今よりも過酷だった受験競争や詰め込み教育に対する反省から、文部省(現・文部科学省)がいち早く「ゆとり教育」路線を推進しようとした時代でした。教科内容の削減や週休2日制などが実施され、さらに総合学習が導入されるなど公立学校とそれを

取り巻く環境が大きく変わりはじめます。こうした状況に呼応するかのように「私立の時代」が叫ばれ、私立学校の人気が高まることになるのですが、こうした時代に泉ヶ丘校の教員となりました。

当時の私立学校も厳しい競争に晒されていましたが、今よりは「量気のよい」状況でした。大阪府下の児童・生徒数がピークを迎えていた頃で、それ以降減少していったとはいえ、私立学校に進学する生徒は増え続けていました。南大阪の新興進学校として売り出していた泉ヶ丘校にとって、幸運な時代だったといえるでしょう。

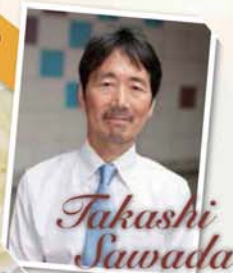
それから27年の歳月が経ちました。泉ヶ丘校の土台を築いた先生方の多くは既に退職され、鬼籍に入った方もおられます。私自身もいつのまにか50歳半ばとなり、時間というものの残酷さというか、人生の無常を感じて年齢になりました。一方で、卒業生の教員が増え、今年の新人は24期生です。

ら、泉ヶ丘校は新しい時代を迎えつつあります。教員が入れ替わるとともに、学校のかたちや雰囲気が変わっていくのは自然の成り行きでしょう。

毎年欠けることなく、次々と新しい生徒が入学してくる泉ヶ丘校は恵まれた学校です。若いエネルギーが常に補充されているわけで、教員にとっても良い刺激になっています。教員という仕事は、授業が上手いかなかったり、生徒との関係に悩んだりといったことの連続ですが、教員には他の職業人に比べて若々しく見える人が多いようです。若い世代と日々接しているからでしょう。

活気溢れる生徒たちによって、そして数多くの卒業生の支えによって学校は成り立っています。卒業生の皆様のご活躍の一つひとつが泉ヶ丘校の財産であり、泉ヶ丘校を守っていく力になることは確かです。皆様の益々のご健勝とご発展を祈念いたします。

02



Takashi Sawada

澤田 隆 先生(数学)

卒業生のみなさん、こんにちは。私は泉ヶ丘校開校の年に赴任しましたので、もう30年以上もこの泉ヶ丘校で働いています。開校当初はベテランのすごい先生方がたくさんおられたので、教師になって4年目という未熟な私でしたが、そういう先生方の背中を見て、いろいろ学ばせて頂いた記憶があります。「一味違う進学校を目指して」という思いで、すべての教員、事務職員が同じ方向を向いて頑張っていました。学習面はもちろんですが、行事も盛りだくさんで、若かったこともありとても充実した毎日を生徒たちと過

ごしていたように思います。その中でも思い出すが、金剛山への耐寒登山です。特に一期生のみなさんと一緒にすごい積雪の中を泳ぐようにして登ったこと、山頂と一緒に凍ったおにぎり食べたことはよい思い出です。行事が多いことが良いとは限りませんが、中・高生の時にいろいろなことを経験することや、また例えばクラブ活動のように、学力をつけるということとみれば無駄に思えることをやり通すことが、実は人格の形成にとってはとても大切なことだと思います。私自身も中学、高校と6年間バスケット部に所属し、辛い練習に耐えてやり通した経験が大人になってから一番役立っています。もっとも、今も生徒には勉強、勉強としつこく言っているという矛盾はあるのですが。

さて、私は現在中学3年生の担任をしています。中学の担任は16期生のみなさんの担任をさせてもらって以来なので、実に15年ぶりになります。中堅といわれる年齢になってからは授業もほとんど高校ばかりだったので、ほんとうに久しぶりに中学生を担当しています。教科指導の経験は積み重ねるほど役に立つのですが、生徒指導の経験はあま

り役には立たないと思っています。ですから今も、元気な中学生に負けないよう日々新鮮な気持ちで、とにかく生徒ときちんと向き合うことだけを心がけています。

今年はワールドカップがありましたが、日本代表の本田選手が大会前のテレビ番組の特集で、「プロフェッショナルとは」という質問に、「自分の仕事に真面目なこと」と答えました。私は本田選手の人間性や人となりについては何も知りませんでしたが、その答えを聞いて、彼のサッカーに対する思いが分かったように感じました。ある程度仕事も覚えてベテランと呼ばれるようになってからは、私も自分の仕事に対して、生徒に対して、真摯であることを常に心がけています。

卒業生のみなさんの中には、社会の第一線で働いている人、家族のために頑張っている人がたくさんおられるでしょう。きっとみなさんも同じ思いで日々の生活を送っておられるのではないですか。そういう卒業生のみなさんをこの泉ヶ丘校から応援しています。そして、くれぐれも健康には留意されて、充実した毎日を送られることを願っています。では、またお会いできる時を楽しみにしています。

新★幹事 大学生

CAMPUS LIFE★ 「キャンパスライフ」

これが僕の
ある1日の
スケジュールです。

立命館大学経営学部 国際経営学科
中林拓己 (普通科 29期)

大学に入学してもうすぐ2ヶ月が過ぎ、夏休みも目前になってきました。最初は心配だった友人関係や一人暮らしにもようやく慣れ、大学生活が充実してきました。では立命館大学での一日の予定を紹介したいと思います。

7:30 起床
一人暮らしなので起きるのは高校の時より少し遅いくらいです。

9:00 1限目
原付での通学なのでゆっくりと準備をしながら登校できます！僕の学科は毎日英語の授業があって同じメンバーで勉強するの友達ができちゃいました！

10:40 2限目
ドイツ語を選択したのでドイツ人のネイティブの先生と授業をします。難しいうえに授業料も先生の手配の授業料もあって毎日いろいろ大変な生活を送っています。

12:00 昼食
うちの大学には食堂が3つとコンビニ、あとお弁当を買える場所や屋台のようなものもあって毎日いろいろなものを食べることが出来ます！

13:00 空き時間
次の授業まで空きコマがあるので図書館で自習をしたりジムで体を動かしたりします！

14:40 4限目、5限目
4限目は毎週同じメンバーで経営学部の教授が授業してくれ、5限目はそのままだけの授業です。5限目はそのままだけの授業です。5限目はそのままだけの授業です。

19:00 バイト
この日は結構ハードです。でもバイトの方々がすごく良くしてくれてとても楽しいです！

24:00 帰宅、就寝
バイトから帰るとくたくたで次の日の準備をするので早く寝ます。宿題に追われていると寝るのが遅くなりますが、(笑)

Voice

これを見て楽しそうだと思うかきつそうだと思うかは人それぞれだと思います。確かに授業の数は多いしんどいですが、大学にはいろんな人がいてすごく刺激を受け尊敬できるような子が同年代にたくさんいます。みなさんぜひ残りの高校生活を思う存分楽しみなが勉強をがんばってください!! みなさんが楽しいキャンパスライフを送れることを願っています。

これがわたしの
ある1日の
スケジュールです。

近畿大学 経済学部 総合経済政策学科
古川紗穂 (普通科 29期生)

大学に入学して3ヶ月が経とうとしています。時間が経つのが本当に早いです。だいぶ色々なことにも慣れてきて、毎日楽しんでいます。ここでは、私のキャンパスライフを紹介したいと思います。

6:30 起床
いつもギリギリまで寝ているので、大急ぎで準備しています。(笑)

7:15 出発
26分発の電車は、ほんの少し空いているのでなるべく早く乗るように頑張っています。

8:50 到着
長瀬駅から私の校舎まで歩いて20分ほどかかるので毎日大変です。

9:00 授業開始
1限は、睡眠と闘っています。(笑)2限は、空きコマが多いので、友達とのおしゃべりや、課題をしたりしています。

12:10 お昼ご飯
近大通りの店や学食などを利用し、みんなで喋りながら食べています。

18:00 授業終了
この時間には終わる5限は週1です。他の日は、早く終わるので大学終わりに友達とUSJや映画などに行っています。

20:00 帰宅
サークルのある日は、11時ごろになります。学校で残って、みんなで課題をしながら帰ることもあります。

24:00 就寝
明日の準備をしてから、なるべく寝るようにしています。課題が溜まっているときは、寝るの遅くなります。(笑)

Voice

高校の時とは違い、履修も自分で組み、すべて自己管理となったので慣れるまで大変でしたが、今は毎日楽しく過ごしています。進路の免許と取得したので、7月からバイトを始め、お金を貯めつつ、今しか出来ないことを思う存分しようと思っています。受験は大変でしたが、乗り越えた今、自分の楽しさが溢れていると思います。

同窓会報告

プチ 同窓会

dousoukai
01

普通科8期生・国際科7期生 同窓会 前田 宏樹(普通科8期生)

平成26年5月3日(土) スイスホテル南海大阪にて普通科8期生・国際科7期生の同窓会を開催いたしました。当日は当時担任でもあった脇田校長、谷教頭、西元先生、横川先生、岡憲司先生、宮本先生が参加してくださいました。総勢90名弱の参加者で、大変にぎやかで楽しい同窓会となりました。

この日のために遠方から足を運んでくれた人も多数おり、予想以上にたくさんの同窓生が参加してくれました。卒業してから20年以上が過ぎ、当日は懐かしい面々との再会にととても感動しました。気心知れた同窓生たちとの懐かしい話は尽きず、13時から16時までの同窓会はあっという間に時間が過ぎていきました。皆さんには十分満足してもらえたようで、同窓会を開催してよかったと実感いたしました。そして最後には写真を撮影し、会を終えることができました。

最後になりましたが、参加してくださいました先生方、同窓生の皆さん、どうもありがとうございました。

また、今回出席できなかった同窓生の皆さん、次回お会いできるのを楽しみにしております。



dousoukai
02

普通科27期 同窓会 井村 早希(普通科27期生)

2014年1月13日の成人の日に、普通科27期生成人式記念同窓会を行いました。主催者の予想を超える90名以上が集まり、山本先生、西元先生、前田先生もご参加くださいました。懐かしい泉ヶ丘校での思い出話と、それぞれの卒業後の話を花を咲かせ、時間も忘れるほどでありました。10年後、20年後もまた同じようにたくさんの卒業生が参加してくれたと嬉しく思います。

尚、開催に伴ってご協力頂いた同窓会委員長、先生方、参加者の皆様がこの場をお借りして改めてお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。



dousoukai
03

普通科17期・国際科16期 同窓会 花田 大明(普通科17期生)

平成26年1月3日、普通科17期生と国際科16期生の同窓会を心斎橋で開催しました。6年ぶりの同窓会となり、約50名が集まりました。30才になったこともあり、結婚や子どもの話も多く聞かれました。中には普通科と国際科の夫婦も。

話は尽きず、あっという間に時間が過ぎました。盛大な会になったことを参加して下さった皆さま、そして、フォローしていただいた他の幹事の方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

また、これをお読みの皆さまも、ぜひ、同窓会に参加してみてください。高校時代とはまた違った繋がりができると思います。



同窓会のお知らせ

帝塚山学院泉ヶ丘高等学校
国際科1995年卒

皆さん如何お過ごしでしょうか?早いもので第一回同窓会から4年がたちました。お忙しいとは存じますが、また一緒に楽しいひとときをすごせればと思っています。

日時:平成26年10月12日(日) 13:00~16:00

場所:なんば(前回と同じ会場予定)

会費:7,500円 ※詳細は後日連絡します。

平成26年8月末までに御氏名(旧姓も)、メールアドレスをご記入の下記アドレスまで参加・不参加のご連絡をお願いします。

sixdayswonder@gmail.com 山本陽子

前回同様、参加不参加に関わらず簡単な近況を皆さんにお伝え出来ればと思っていますので、メッセージを添えていただけると嬉しいです。

※ハガキ連絡はいたしません。連絡の付く友達にこのメールを回して頂ければ有難いです。小学生以上の同行者がいる場合は人数と年齢をお知らせください。ご連絡いただけるのを楽しみにお待ちしております。

山本陽子 平井知子

ホームページアドレス

www.tezuka-izumi.jp/

〒590-0113 堺市南区晴美台4丁2番1号
帝塚山学院泉ヶ丘同窓会事務局

TEL&FAX.072-293-8680

E-mail t.izumi@aurora.ocn.ne.jp

帝塚山学院

東京同窓会REPORT

【開催日】
2014 7/13(日)

奥村 幸恵(国際科2期生)

7月13日(日)、青山ダイヤモンドホールにて、2014年度帝塚山学院東京同窓会総会が開催されました。当日は107名の同窓生の方々ご出席され、細川会長とともに私もお出席させていただきました。

今回は卒業期54回生の方たちが幹事をされており、同じく54回生の山村若女さんの華やかな日本舞踊の舞、関東在住のマダムコース「MADAM e DO」の皆さんの歌、卒業生である元劇団四季の久野綾希子さんご挨拶などが続き、華やかな総会となりました。高校・大学の恩師の先生方もお元気でご出席されていました。

高校の音楽の教員をされていた斉藤先生が「帝塚山学院歌」の歌詞の解説をされました。私は子供のときから歌詞の意味をよくわからずに学院歌を歌っていたので、先生の解説はとても興味深いものでした。今回は最後に、ピアノ伴奏に合わせて恒例の学院歌・祝歌・泉ヶ丘賛歌の斉唱をして、会はお開きとなりました。

関東在住の皆さん、ぜひ来年はこの東京同窓会総会と一緒に参加しましょう。



来年は6月27日(土)に開催いたします。

【お問い合わせ】泉ヶ丘同窓会事務局 TEL 072-293-8680



ウエムラサイクルパーツ 上村 和功 (普通科18期生)

まずお邪魔したのは、普通科18期生の上村和功さんがいらっしゃるウエムラサイクルパーツです。

住之江区粉浜でひいおじさんが自転車製作する工房として始められ、おじいさんの代で自転車の販売をするようになり、現在の社長であるお父様の時にスポーツ車の販売に特化し、現在に至ります。

元は「ウエムラパーツ」という店名だったというぐらいで、完成車はもちろんのこと、部品やアクセサリ、ウエアなどの販売にも力を入れており、今回訪れた梅田店でも、その品揃えには驚きました。

今は店頭での接客や、商品の仕入れの担当をされている上村さんですが、始めはお店を継ぐつもりはなかったそうなんです。

泉ヶ丘校を卒業後、同志社大学工学部で化粧品などに応用される微粒子の研究をされました。そのまま研究者としての道に進みたいと考えていましたが、同じ頃、お父様が店舗を拡張されます。お父様は何も言われませんでした。が、それを見ていた上村さんは、大学2年の頃にこの商売を継ごうと決意します。大学卒業後にカナダ・バンクーバーに1年半留学。この留

学では、いずれ海外からも仕入れることになるのを予想して、語学の他に現地の業界事情や実務のことを学びました。

帰国すると、拡張したお店が忙しくなっており、そのままお店に入ります。その後、新店舗となる梅田店と福岡店の立ち上げにも関わるなど、仕事の幅を広げながら活躍を続けられて

います。現在、お店は3店舗あり、本店である住之江店では古くからのお客様が多く、マニアックな物やビンテージ品を求める傾向があり、さらに競輪選手のお客さんも多いなど、プロショップとしての性格が強いそうです。旗艦店である梅田店は初心者から上級者まで満足してもらうために店頭での品数は一番豊富に取り揃えてあり、福岡店では小倉競輪でのイベントに出店することを7年ほど続けたところ、リピーターのお客様が増えたので、常設店にすることを決めたというエピソードがあるなど、各店それぞれに特色があります。

全体的なお店に共通しているのは、「ウエムラに行く」と欲しい物が手に入る」と言っていたけるよう、細かい部品や少ない部品も切らずに在庫するようにしていることで、「1日いても飽

きない」楽しめる店づくりを心がけています。

会社としては、年に1回に開催される「けいはんなサイクルレース」の冠スポンサーとして運営に協力し、上村さんご自身もロードバイクに乗り、お客さんやスタッフの方と走りを楽しんでいるようです。

健康作りのためや運動のため、自転車に興味のある方は、お店に行けば相談に乗ってもらえますよ。

実は取材当日、普通科5期生の田中さんも同行されていたんですが、なんと！私が撮影している間に自転車1台お買上げされました(笑)。

取材中もひっきりなしにお客様が訪れ休日にも仕事だったという上村さんですが、1歳半になるお子さんと遊ぶのが今の一番の楽しみだそうです。



ご満悦の普通科5期生の田中さん

ウエムラサイクルパーツ 梅田店 平日 / 10:30-20:00 (日・祝日) / 10:30-19:30 | 定休日: 毎週水曜日・第1・3火曜日

大阪市北区曽根崎2-2-15 KDX東梅田ビル TEL 06-7711-4402

<http://uemura-cycle.com>



わいんとおばんざい「季節」 井上 節子 (国際科1期生)

続いて訪れたのは、国際科1期生の井上節子さんがオーナーソムリエで、ワインや日本酒とともにおばんざいを楽しめるお店「季節」です。

井上さんは甲南女子大学文学部国文学科を卒業後、飲料会社の営業職として勤務し、「食」を通じて流通や販促を学ばれました。

その経験を活かし、空間プロデューサーとして27歳で独立。売り上げを伸ばすための店舗ディスプレイを手がけ、その手腕を百貨店、量販店、ホテル、レストラン、モデルハウスなどのコーディネート等で発揮されてきました。

並行してテーブルコーディネートやワインの知識も積み重ね、シニアワインアドバイザー、ソムリエを始めフードコーディネーターやテーブルアーティストなど、食に関連する様々な資格を取得されました。

そして、数々の現場をこなしてきた中で、自らも飲食店を経営することを決意し、2001年に東心斎橋でカジュアルダイニングのお店「ボタジェ」をオープン。2006年に難波へ移り、フランス料理の店「m.s.」をオープン。2011年にリニューアルし、「季節」として現在に至ります。

和の文化をお客様に発信できればと、モダンジャパネスクにまとめた店内はご自身で手がけ

られ、ディスプレイはなんと手作りなんだそう。

ご実家が農家でもあるので、お米やその季節の野菜・ハーブは井上さん自身が無農薬で育て、収穫したものは新鮮なうちにお店に運び、お客様に提供されています。

また、お店は会員制となっていて、一見とても敷居が高そうなんですが、お聞きすると、会員制にすることにより、例えば政治家同志、ライバル会社同士のお客様が鉢合わせすることを未然に防いだり、来店されるお客様に合わせたワインや食材を提供できること、そしてなによりもゆっくりワインを楽しんでいただきたいという、井上さんの細やかな心配りによるものなんだということがよくわかりました。

お客様には泉ヶ丘校の卒業生や先生方も多く、取材当日には木内先生がご来店！23年前に泉ヶ丘校の留学生としてドイツから来日し、柔道部に入り1年で黒帯をとって帰った伝説があり、現在はスイスで外科医として活躍されているニル・パドワアさん達を伴い、楽しいひとときを過ごされていました。

店舗の経営だけでなくとどまらず、帝塚山学院大学講師や辻学園調理製菓専門学校の講師もされ、書道師範でもあり、昨年篆刻で大阪市

長賞を受賞。

ご自身のライフスタイルの変化に合わせ、柔軟に、しなやかに仕事のスタイルも変化させていらしゃいます。時代とともに自分の店を持ちたい若者・女性が増える中で、後進のためにも経営のノウハウを蓄積しているところです。

又、人生の終焉を季節を感じながら人として美しく迎えるための医・食・農を連携した町づくりも構想中。

古来より、大事な食事には必ずワインでした。真実を聞き出すときもワインの力を借り、政治の場面でも使われてきたそうです。

おいしいワインと食事をいただきながら、そんなワインにまつわる楽しいお話を聞いてみませんか？教えていただけますよ。



同窓生普通科2期生(3組)の皆様も 毎年12月30日に「季節」へ集まっています。

わいんとおばんざい「季節」 18:00 ~ 23:00 定休日: 日曜日、祝日 要予約

大阪府中央区千日前1-7-11 上坊ビル3F TEL 06-6211-2315

<http://setsukonoheya.com>

帝塚山学院 泉ヶ丘同窓会 in 東京2013

IZUMIGAOKA DOUSOKAI IN TOKYO

東京委員会委員長 奥村 幸恵(国際科2期生)

2013年11月16日(土)に、ザ・キャピトルホテル東急にて、東京では初めてとなる同窓会総会が開催されました。

関東圏には数百名の同窓生のみなさんが在住しており、東京でも同窓会のつながりを強めようということから、同窓会組織に一昨年(東京委員会)が設立され、昨年から7名の委員会メンバーで総会準備を始めました。同窓生同士のつながりが大阪のように強くない東京で、はたしてどれだけの同窓生たちに集まってもらえるのか...委員会メンバー一同不安に思っておりましたが、当日は1期生から26期生まで総勢92名ものみなさんがご参加くださり大盛況の会となりました。

大阪からは、脇田校長、登副校長、谷教頭の3名の恩師の先生方にご出席いただき、ご挨拶やスピーチなどをいただきました。また、泉ヶ丘校の校舎の写真をはじめ、昔の授業風景や体育祭、研修旅行などの写真のスライドショーが始まり、映像が懐かしくてみんな画面に釘づけになりました。

総会のイベントとして、ゲストに住吉校の卒業生であるヴァイオリニストの平松加奈さんをお招きし、ピアノの新澤健一郎さんのジャズのデュオ演奏で総会に華を添えていただきました。プロのミュージシャンの生演奏に会場は大盛り上がりとなり、最後には帝塚山学院祝歌<あかね雲>を生演奏で斉唱し、総会はお開きとなりました。

2013年は泉ヶ丘校創立30周年という記念すべき節目でもあり、その節目の年に、初めての東京同窓会総会を開催することができたこと、たくさんの同窓生の方たちにご参加いただきましたこと、事務局をはじめ同窓会の役員・幹事の皆さま方に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

「こういった同窓会に卒業以来初めて参加しました」「同窓会がこういう組織になっていることを今回知りました」などの声をたくさんいただき、あらためて今回の東京での同窓会総会の意義を感じました。これを機に、東京でも同窓生の交流の場を広げていけるよう、東京委員会メンバーを中心にこの(つながり)を大切にしていきたいと思っております。同窓生のみなさん、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

帝塚山学院泉ヶ丘同窓会 in 東京



第4回 帝塚山学院泉ヶ丘OB(青雲会) ゴルフコンペを開催しました!

青雲会 第4回幹事 三木 良介(普通科4期生)



成績表(ダブルベリア)

順位	氏名	IN	OUT	クロス	HDCP	NET
優勝	犬伏 健介	37	48	85	13.2	71.8
準優勝	松下 幸博	43	40	83	10.8	72.2
3位	筒井 俊光	60	49	109	36.0	73.0
4位	江口 康二	45	44	89	15.6	73.2
5位	中島 啓樹	43	42	85	10.8	74.4
6位	上田 和毅	43	41	84	9.6	74.4
7位	木内 秀和	48	54	102	27.6	74.4
8位	角掛 潤一	41	42	83	8.4	74.6
9位	谷 啓介	44	44	88	13.2	74.8
10位	竹之内教博	50	50	100	25.2	74.8

日本列島が太平洋高気圧とチベット高気圧のダブル高気圧による記録的猛暑で、お年寄りが熱中症でバタバタ倒れ、「灼熱のゴルフになるな」とコンペの段取りしながら思っておりました。

しかしながら、新聞一面に「梅田地下街冠水〜記録的豪雨10分間に27mm〜」・「JR不通」等が掲載される。聞いたことない大雨が降った日に、果敢にチャレンジする勇者10組40名が母校に近い聖丘カントリーに集結し、「第4回青雲会」が開催されました。「晴れ男」が受付しているのに「大雨・洪水警報」も発令され、他のお客さんは諦めて続々と帰って行くなり、「これやったら、「青雲会」じゃなく、「暗雲会」やなあ...」と思いつつ...集合時間前に全員集合、流石です。

集合写真撮影時は一段と雨が強く、「スタート室屋根の下」、味気ない背景でしたが、皆さんの明るい笑顔で素敵写真になりました。プレーしながら「こんな天気やから、みんなも成績悪いやなあ...」と思いましたが、40名中クロスでなんと80台が11名! 90台が4名! 皆さんなかなか立派です!!

表彰式では事前に決めた賞品以外に「シャンパン」や「すだち」をご寄付頂き、和気藹々と楽しい発表でした。(高原さん、松本さんありがとうございました)

優勝は2年連続優勝する配慮のない「犬伏さん」でした。ベスグロは82の阪口先生。成績表を見ると優勝者を除き、やはり年齢を重ねるほど、ゴルフも上手なようです。

来年はもっと若い後輩達にも参加してもらって、更にこの青雲会を盛り上げていて頂きたいと思えます。とにかく今年の青雲会は永田先生がおっしゃられた一言に尽きるとします。

「今まで何回もゴルフしてきましたが、この大雨のゴルフはいつまでも忘れない思い出に残りますね。」

最後になりましたが、コンペ会費の残金(43,830円)は次回のコンペへ持ち越しとさせていただきます。今年は8月24日に開催予定ですので、同窓生お誘い合せのうえ多数のご参加をお待ちしております。

みごとと賞を
GETした方々!!



幹事総会報告

副会長 島田 裕典(普通科13期生)

平成26年5月10日(土)午後3時より、泉ヶ丘校の文化ホールにて幹事総会を開催しました。1期生から昨年度の卒業生である29期生まで総勢36名の幹事が出席しました。また、脇田校長・谷教頭にもご出席いただきました。活動報告、決算と会計監査報告、事業計画などご承認をいただきました。

幹事総会後の懇親会は、普通科29期・国際科28期の新任幹事の皆様の歓迎会を兼ねて「はや 魚太郎 泉北の郷」で行われました。おいしいお鍋を頂きながら、各学年ごとに自己紹介を行い幅広い年代の方々と交流を行いました。

同窓会活動にご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、積極的に申し出いただければ幸いです。



Club activity Report 2014 部活動報告

高校サッカー部

監督 太田 成勇



こんにちは、サッカー部の活動報告をさせていただきます。現在3年生8人、2年生13人、1年生17人総勢38人で練習しています。部員のほとんどが入部する時点で、勉強とサッカーをしっかりと両立したいということで入部できます。何がどうなれば両立なのかは人それぞれ違うでしょうが、レベルが上がれば上がるほど、サッカーも勉強も苦しくなります。7時間授業があり、8時間目の授業があり、補習があり、多くのテストがあります。その中でいかに、意味のある課題を見つけ、解決して乗り越えているのか、そのことに日々挑戦しています。

勉強は自己完結をすることが多いのですが、サッカーは苦しい中でいかに仲間のために汗をかけるのかということが大切になります。自己完結では終われないのです。泉ヶ丘校は開校当初から、思いやりと努力、将来のリーダーを育成する、ハイレベルの一味違った進学校を目指す、という教育してきていると思います。同年代のハイレベルの選手たちと、真剣勝負をすることは、泉ヶ丘校の選手たちにとって、大きな財産になっているのではないかと思います。

現在サッカー部は大阪でトップ16に入るかどうかぐらいの力です。トップ8は一度だけ入ったことがあります。まだまだ、サッカーでハイレベルとは言えないと思いますが、部員たちは毎日自問自答しながら汗を流しています。

開校当初、長期休暇中は全く練習できず、毎日たった15分～30分の練習の中で、クラブを立ち上げ存続させて下さった、開校当初の先輩方。真っ暗なグラウンドでトレーニングをし、初めて3年生まで残って、強豪校といわれるチームに勝つことなく戦って、勝利を勝ち取った先輩方。マネージャーとして裏方業務をしてくださった先輩方。思い出しながら感謝の口にするべきではありません。現在選手たちが勉強とサッカーに精一杯打ち込めるのは、数多くの諸先輩方のおかげです。ありがとうございます。

現役生が卒業後諸先輩方に、お世話になることもあるかもしれません。どうかその時はご指導のほど、よろしくお願いいたします。卒業された先輩方が、また入学してくる後輩たちが、この学校のチームで良かった、この学校のチームに入ろう、と思っていただけでも日々努力してまいります。お忙しいとは思いますが、またグラウンドや試合会場に足を運んでいただいて、ご指導をいただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

ユネスコ部・インターアクトクラブ

顧問 岡 憲司



活動の柱の一つは、青少年赤十字活動です。被災地支援募金や献血の呼びかけ、大阪城美化活動、救急救命措置や国際人道法の学習などです。他校生と共に、日赤大阪府支部や青少年赤十字活動加盟校教員による指導のもとで活動しています。高校生連絡協議会の副会長以上の役割をユネスコ部から3年続けて出すなど、大きく貢献しています。泉ヶ丘校に被災地支援活動を続けている卒業生(27期生伊藤さん)を招き、5月に防災ワークショップを実施しました。

インターアクトクラブ(IAC)の活動も活発です。国際的課題について学んだり、海外の高校生と交流したりします。昨秋には、桃山学院大学で「国際交流親睦会」を実施しました。建國中高伝統芸術部の舞踊を鑑賞し、堺市在日外国人教育研究会の協力により韓国の遊び・踊り・民族衣装・ハンゲル・楽器などを体験することができました。他校生も合わせて150人以上が参加しています。昨年末にはロータリークラブ(RC)がタイから招いた高校生を、本校のIACメンバーがホームステイで受け入れています。

夏から秋にかけて、ユニクロが社会貢献活動として行っている「服のチカラプロジェクト」に参加しました。衣類を集め、ユニクロ・国連難民高等弁務官事務所をへて難民キャンプに送ります。泉ヶ丘祭では、難民キャンプについて調べ展示もしました。

他に、堺市博物館と大阪大学歴史教育研究会主催の「日本と世界が出会うまち・堺2013」の教育セミナーで、仁徳天皇陵について発表し、優秀賞を獲得しています。



卒業生 母校に 帰る



須藤 慶之 先生
(普通科13期生)

母校を卒業して16年が経ち、英語科教員として泉ヶ丘校に着任して、今年で3年目になります。生徒だった頃、泉ヶ丘校の教員になることが夢でしたが、すぐにチャンスはおとずれず、数年間、他校で経験を積んだ後、その夢が実現することになりました。泉ヶ丘校では、中学3年生を入学当初から担任させていただき、部活は自分が所属していた高校硬式テニス部の顧問をさせていただいています。

着任する際、仕事には慣れていたはずですが、恩師を目の前にするとどうしても生徒だった頃の感覚が戻ってしまい、違和感を感じながら働いていました。働き始めてからも、恩師から教えていただくことが多く、生徒の前では教師、恩師の前では生徒になっている時もあります。

この教職の道に進もうと思ったのは、テニス部での経験や大学受験の際、熱心に指導していただいた経験があったからです。テニス部では、後輩を指導することによって人と共に成長する喜びを知り、また、大学受験の際、自分の夢を実現するために、熱心に指導して下さった先生の姿を見て、自分も同じように、生徒が夢を実現する手助けをしたいと思うようになりました。

これからは泉ヶ丘校の教員として、後輩たちが泉ヶ丘校でしかできない貴重な経験をし、卒業する際、自信に満ちた笑顔で巣立っていかれるよう、努めていきたいと思っています。

2014

泉ヶ丘祭
インフォメーション

泉ヶ丘同窓会 (特設スタジオ)

9/13(土)
10:00~14:00

【開催場所】
B棟 地下1Fグループ教室6・7

本年も同窓会では、催しを開催します。
今回は懐かしの企画、写真スタジオ。
どのようなスタイルになるのかは乞うご期待、
お気軽にご来場くださいませ!!

写真スタジオ
OPEN!



稲見 伸介(普通科7期生)
プロカメラマンとして活躍中!



計報

元国語科教諭 井邊 敏昭先生

心よりご冥福をお祈り致します。

日本式医療機器および医療サービスの 海外展開事業へのご協力をお願い

山田 憲嗣(普通科2期生)

私が主幹する大阪大学大学院医学系研究科「ロボティクス&デザイン工学融合共同研究講座」では、経済産業省が主導する【日本式医療機器および医療サービスの海外展開事業】への参加が平成26年6月に採択されました。

本事業の特徴は、新興国に対するリユース医療機器および医療サービスの海外への展開であります。日本における医療機器は、メーカー各社による絶え間ない研究開発努力によって頻繁に機器や周辺機器がバージョンアップされています。そのため、病院で新しい機器を導入した場合、中古品となった医療機器の多くは、病院内の倉庫に保管されたり、最終的にはメーカーに引き取られるケースがあったり、業者を通し安く販売、或いはそのまま破棄する等のケースがあるかと思えます。ただ、そのなかには、治療や診断内容によってはまだ使用に十分耐えうるものも相当数含まれていることが多いと思われます。これらのまだ使用できる機器、或は用具を新興国の方々に使用してもらい、新興国の利用者の中にいわれる日本式医療の「ファン」層を形成することが、今後の日本の医療に対するステータス向上、日本の医療機器に対する安心感が産まれることによる、経済的な効果は計り知れないと考えます。

本研究室では、成長著しく、人口が増大しているインドを対象国として、インドの病院に対して、以下のサービス事業の展開を進めてまいります。

- 日本のリユース医療機器を日本の医療機関(もしくはメーカー)が性能保証しつつ現地の病院に低コストで提供
- 日本の医療機器のメンテナンス技術を両国間の人材交流を含むトレーニングプログラムを通じて現地の病院に提供

インドは、人口や経済規模の飛躍的な拡大に加えて富裕層や中間層の増大に伴い、アジアの中でも最も有望な医療関連市場として注目されています。現状では医療機器の支出額を国民1人当たり換算すると、米国が300ドルを超えているのに対し、インドでは2ドルに過ぎず、インドで販売されている医療機器のほとんどは輸入製品(金額ベースで見ると7〜8割)であり、かなり高額な製品を導入している状態です。また、導入されている欧米メーカーのアフターサービスが必ずしも充実しているとはいえないため、病院や患者の医療サービスの機会損失や医療事故などが多く発生している現状もあります。このような問題を少しでも日本式医療を導入することにより、改善して両国の絆を深めていきたいとも考えております。

長くなりました。今回皆様、特に、病院、クリニックなどを経営あるいは仕事に従事されている方をお願いしたいのは、買い替え、或は機種交換の際、不要になったもの(リユース可能なモノ)をご提供いただければと思います。この事業につきまして、ご賛同いただける方は、下記の連絡先までご一報いただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の記事につきましては、臨田校長先生に無理をお願いいたしました。ここに改めて御礼申し上げます。

〒565-0871 吹田市山田丘1-7
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
特任教授 山田 憲嗣 宛
E-mail:k-yamada@sahs.med.osaka-u.ac.jp
TEL 06-6879-2614

お問合せ

100周年記念募金事業のお願い

学校法人帝塚山学院は、創立100周年にふさわしい募金事業として、経済的に修学困難となった学生・生徒・児童たちが一人でも多く卒業できるための「独自の奨学金制度の創設」及び同窓生や学院生にとって有益な「施設・設備等の設置」を行いたいと考えております。上記二つの事業に充当するための記念事業募金に、皆様方のご理解ご支援をお願い申し上げます。

募金要項の骨子

- ① 募金目標額 3億円 募金口数 1口3万円(2口以上のご協力をお願いします)
*1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。
- ② 募集対象 本事業に賛同頂ける、在校生および卒業生の保護者、新旧の教職員、同窓生、学院関係者並びに法人(企業)
- ③ 募金用途 学生・生徒・児童への奨学金および学生・生徒や同窓生にとって有益な施設・設備の設置に充当します。
- ④ 募金期間 2010年7月から2016年3月まで *期間終了後も継続して募集してまいります。
- ⑤ 芳名録の作成 寄付申込を提出された方々のお名前を随時的に芳名録に記載し、「学院通信」などでお知らせいたします。最終的には募金期間終了後、寄付金の金額を記した最終芳名録を作成し、学院に永久保存して顕彰させていただきます。なお、ご本人の希望により匿名扱いもいたします。
- ⑥ 寄付者の顕彰 芳名録に基づき、個人100万円以上、法人300万円以上の寄付者については、学院・住吉キャンパス内に「帝塚山学院創立100周年記念事業寄付者銘板」を設置し、顕彰いたします。
- ⑦ この寄付金は、確定申告等により所得控除又は税額控除の適用を受けることができます。詳しくは100周年記念事業局にお問い合わせください。

お問い合わせ

学校法人帝塚山学院 創立100周年記念事業局 〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山中3-10-51
Tel : 06-6672-1961 Fax : 06-6678-8797 E-mail : 100nen@tezukayama.ac.jp URL : http://www.tezukayama.ac.jp

アドミッションセンターより

平成26(2014)年度 泉ヶ丘校の入試結果

中学入試は、1次入試(約120名)、2次入試(約30名)、後期入試(約10名)と3回の入試を実施しました。1次入試では昨年度よりも多い236名の受験があり、1次、2次、後期入試合わせて160名の募集定員に対して196名の新入生を迎えることができました。

高校入試は、募集定員80名に対して、入学者数は80名となりました。中学・高校の受験者・合格者・入学者の数、合格者平均点などの詳細はホームページに掲載しています。また、次年度の入試に関する情報についても随時掲載していきます。

平成27(2015)年度 入試のお知らせ

【入試関連行事の日程】 ※ 下記の入試関連行事は、本校にて開催します。詳細はHPでご確認ください。

中学入試関連	入試説明会	10月4日(土) 14:00~	児童・保護者対象の説明会です(予約不要)。
	プレテスト	11月3日(月・祝) 8:20~	小学6年生対象で、事前の予約が必要です。同時に、保護者対象の入試説明会も開きます。
高校入試関連	プレテスト個別懇談会	11月16日(日) 13:30~	プレテストの参加者を対象に行います。予約は、プレテストの後に受け付けます。
	高校体験入学	10月18日(土) 13:30~	中学3年生対象で、事前の予約が必要です。
	入試説明会	11月8日(土) 14:00~	生徒・保護者対象の説明会です(予約不要)。
	入試説明会	12月6日(土) 14:00~	生徒・保護者対象の説明会です(予約不要)。

【中学校入試について】

■ 募集人数・日程

区分日程	1次入試 1月17日(土)	2次入試 1月18日(日)	後期入試 1月19日(月)午後
募集コース	医進 特進A 特進B	医進 特進A 特進B	医進 特進A
募集人員	医進(約40名)・特進A(約80名)・特進B(約40名) 約160名		

- 特待生・特奨生制度 特待生/入学金の全額と授業料の全額を免除します。
特奨生/入学金の全額と授業料の半額相当額を給付します。

【高校入試について】

■ 募集人数・日程

コース 定員	区分 日程	1次入試 2月10日(火)・11日(水・祝)	帰国生入試 1月26日(月)
普通科(理数) 国際科		約80名	(約5名)※内数

- 特待生・特奨生制度 いずれも学業優秀で、中学校長の推薦を受けた受験生が対象となります。

第3回 キャリア教育(職業体験)を実施します

中学3年生を対象に関心のある職業を調査し、それをもとに職業体験が可能な大学や研究所、企業などを訪問します。前回は、15ヶ所の訪問先から2ヶ所を選び、1日ずつ体験しました。3学期には、体験した内容を保護者や中学生全体に向けて発表する報告会を開催しました。

同窓生の方で、職業体験の訪問先としてご協力いただける方は下記までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。

- 日程 2014年11月6日(木)・7日(金) ● 見学場所 約15ヶ所
- お問い合わせ先 アドミッションセンター TEL.072-293-1416



ヤブキ和漢薬局での職業体験



近畿大学医学部附属病院での職業体験



ATR(国際電気通信基礎技術研究所)での職業体験



中学全校集会での発表

スマートフォンサイトを
開設しています。

学校案内や募集要項などの資料請求、入試に関するお問い合わせは泉ヶ丘校アドミッションセンターまでお願いいたします。連絡先は下記の通りです。

アドミッションセンター TEL.072-293-1416 FAX.072-293-1417 E-mail nyusi@tezuka-i-h.jp



同窓生の皆様

昨年は、母校の創立 30 周年という記念の年でありました。また、同窓会としても、東京で初めての規模な懇親会を開催し、首都圏に生活の拠点を移した同窓生の皆様方の交流が、グッと深くなったと思います。

本年 10 月には、二年に一度の大阪での総会・懇親会が開催されます。たくさんの恩師や同窓生と旧交を温めて頂く良い機会となりますよう、同窓会の総会委員会の皆さんが中心になって楽しい企画を考えて下さっています。是非ご参加下さい。

2016年に帝塚山学院は創立100周年という大きな節目を迎えます。泉ヶ丘同窓会としても、泉ヶ丘校はもとより、帝塚山学院全体の発展に貢献して参りたいと考えています。

今後とも、同窓会へのご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



泉ヶ丘同窓会会長
細川 博 (普通科 3 期生)

みなさんも登録してみませんか？

同窓生の活躍をお勧め先や経営されている会社名などを Web 上で掲載し、ご紹介しています。新たな交流の場として、つながりや発見、新しいビジネスモデルがここから生まれるかも...!? ホームページを活気あふれるものにしていくためにも、みなさんのご登録を待っています！

1 TOPページ右下の「同窓生の活躍」というバナーをクリック。そこに一覧が掲載されています。

2 一番下の掲載方法とお申し込みをクリックして、フォームに必要事項を入力してください。

TOPページ

同級生の活躍ページ

掲載期間は10月から翌年9月までです。お申込及び更新期間は毎年7月頃を予定しております。

掲載の方には、同窓会協賛金(2口以上、1口2,000円)へのご協力をお願いしております。掲載に際しては、簡単な審査がございます。ご掲載のご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。掲載内容により、文字数の関係上調整を行う場合がございます。ご了承ください。

ホームページアドレス

<http://www.tezuka-izumi.jp/> E-mail t.izumi@aurora.ocn.ne.jp

〒590-0113 堺市南区晴美台4丁2-1 帝塚山学院泉ヶ丘同窓会事務局 TEL&FAX.072-293-8680

編集後記



広報委員長
岸本威也
(普通科 6 期生)

みなさんお待ちかねの(?) 青雲最新号ができました! 最近では少しずつですが、掲載記事への反応もいたただけて、制作サイドとしてはうれしい限りです。今号から表紙のロゴが変わりました。また、インタビュー記事に関連して、表紙の写真も大胆にアレンジしてみました。いかがでしょうか? 今回の取材では、筆者が個人的に非常に興味ある分野に携わっている方々のお話が聞けました。各方面に渡って活躍されている同窓生とお会いして、泉ヶ丘校の奥深さを改めて感じた次第です。次回はあなたのところに! お邪魔するかもしれません(笑)

平成25年度 会計報告

収入の部 (25年度決算)			
会費	6,240,000	雑収入	11,380
泉ヶ丘同窓会in東京会費収入	633,000	受取利息	5,524
寄付金収入	0		
学院創立100周年寄付金	0	合計	6,889,904
支出の部 (25年度決算)			
連絡協議会分担金	204,000	泉ヶ丘祭関連費	196,161
贈答費	435,738	泉ヶ丘同窓会in東京関連費	1,485,360
通信費	133,375	備品消耗品費	202,062
東京同窓会関連費	72,280	会費返金(転学・退学・入学辞退者)	280,000
会誌費	1,108,349	学校協力準備金引当繰入費	200,000
活動費	185,737	雑費	12,873
人件費	2,190,900		
広報費	72,220	合計	6,779,055



第8回 帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校

同窓会総会・懇親会



感動を呼ぶ抽選会!

同級生はもちろん、懐かしい恩師や先生方、先輩、後輩とも楽しく歓談できるのが、総会・懇親会の魅力!

日時 2014年 10/19日 締め切り 9月15日(月)

12:00~15:00(受付 11:30)

会場 スイスホテル南海大阪 8F 浪華

会費 一般[1期~23期].....7,000円
学生[24期~29期](2009年卒~2014年卒) 3,000円
同伴者(泉ヶ丘卒ではない方).....8,000円
お子様3歳以上(要申込).....2,000円

「読売テレビで活躍中の宇田記者が司会を担当!」



宇田 洵子 (国際科 19 期生)

1986年8月生まれ
帝塚山学院中学校卒業後、帝塚山学院泉ヶ丘高等学校・国際科に入学。2005年3月卒業。立命館大学国際関係学部に入社。大学では、国際ジャーナリズム論を専攻。故・筑紫哲也氏のゼミに所属し、報道記者という仕事に興味を持つ。2009年4月、読売テレビ放送株式会社に入社。入社6年目、報道局報道部に所属し、入社以来、報道記者。京都支局、大阪府警担当を経て現在は経済・運輸担当。JR福知山線脱線事故の遺族取材や原子力発電所などを取材。そのほかにも、関西に経済効果があるといわれるUSJのハリウッド開業取材なども。

景品を大募集!

景品は前日までにホテルか同窓会室に送付ください。その際の送料は同窓会で負担いたします。お問合せは上記帝塚山学院泉ヶ丘同窓会までご連絡下さい。

独身同窓生必見 泉ヶ丘交流会

仕事から、出会いのチャンスがない環境の方は増えていると思います。「運命的な出会い」「自然な出会い」なんて、なかなかありません。そんな独身同窓生にとって朗報です! 総会の一つの企画として、同窓生交流会を行います。初めて参加する人でも、みんな同じ学校の卒業生なので、自然と話はずむはず! もしもしたら、運命的な出会いがここに...

申込み方法

E-mail・電話・FAX

お問合わせ

帝塚山学院泉ヶ丘同窓会

Tel / Fax : 072-293-8680

E-mail t.izumi@aurora.ocn.ne.jp

Tezukayama
Gakuen
Izumigaoka
Dousoutai

青雲
Seiun

VOL.21

発行年 平成26年8月
編集・発行 帝塚山学院泉ヶ丘同窓会
制作・印刷 株式会社シンカコミュニケーションズ

〒590-0113 堺市南区曙美台4丁目2-1
〒586-0009 河内長野市木戸西町1-5-7

TEL・FAX 072 (293) 8680
TEL 0721 (52) 5934

HP: <http://www.tezuka-izumi.jp/>
HP: <http://www.cinca.jp>

